

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和7)年

仏暦2568年

3月号

(第162号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

ひとへに念仏すすめける



正信念仏偈に学ぶ
宣説大乘無上法
証歡喜地生安樂
大乘無上の法を宣説し、
歡喜地を証して安樂に生
ぜんと。

「現代語訳」
尊い大乘の法を説き、
喜地の位に至って、阿彌
陀仏の浄土に往生するだ
ろう」と仰せになった。

親鸞さまは『高僧和讃』に
も讃えられています。
本師龍樹菩薩は

大乘無上の法をとき
歡喜地を証してぞ

ひとへに念仏すすめける

「龍樹菩薩は、この上なく
尊い大乘の法を説き、歡喜地
の位にあつて、ひとすじに
念仏を勧められた。」と訳さ
れます。

大乘とは、字に示すよう
に「大きな乗り物」という意
味で、自らのさとりを求める
とともに、大きな乗り物に多

くの人を乗せ救われるように
と譬えられた教えです。逆に、
自らのさとりのみを目指した
教えは、小さな乗り物に譬え
て小乗と呼ばれます。龍
樹菩薩は、大乘の教え(法)
を説きひろめられたのです。
そして、親鸞さまは「歡喜
地」の左に「歡喜地は正定聚
の位なり」という説明を付
けておられます。菩薩が仏
になるまでに五十二の段階
(位)があるとされ、その
最後の仏となりさとりを得
た段階を「妙覺」といいま
す。「正定聚の位」とは、
その妙覺の位に正しく定ま
る仲間(聚)ということだす。
つまり、仏にならせていた
だくことが、間違いなく定ま
り、喜びに満ちているという
ことから歡喜地ともいわれま
す。

また、同じく和讃には、
不退のくらゐすみやかに
えんとおもはんひとほみな
恭敬の心に執持して
弥陀の名号稱すべし
とあり、「不退轉の位を速や
かに得ようと思う人は、みな

あつく敬う心から阿彌陀仏
を疑いなく信じ、その名号
を称えるがよい。」と訳され
ます。菩薩がさとりを目指し
四十一番目の段階「初地」と
いわれる位に至ると、そこ
から再び迷いの世界に退く
ことはないといわれるので
「不退轉の位」ともいわれ
ます。さとり半ばであつても
退くことなくさとりは間違
いなく定まつているという意
味です。阿彌陀仏を疑いなく
信じ、名号(南無阿彌陀仏)
を称えるがよいと念仏を勧め
られたのです。

ここまでの句を現代語訳で
まとめてみます。

釈尊は楞伽山で大眾に、
「南インドに龍樹菩薩が
現れて、有無の邪見をすべ
て打ち破り、尊い大乘の
法を説き、歡喜地の位に
至つて、阿彌陀仏の浄土に
往生するだろう」と仰せに
なつた。
龍樹菩薩が世に現れたから
こそ、浄土の教えが今ここに
伝えられていると親鸞さまは
讃えられるのです。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

五、礼儀と作法

― お寺に親しむために ―

「お勤めの作法」

お勤めは「一緒に！」

月忌参りなどで門徒さんの家を訪れてお勤めする時に、しばしば寂しい思いをすることがあります。それは、せっかくお参りしても、家の人が誰もそばにおらず、一人でお勤めしている時です。家の人とはと言うと、別の部屋で何やら用事をしていたり、お勤めが終わってから出すお茶の用意をしていたり、といった具合です。

命日や逮夜（命日の前日）

にお勤めするのは、亡き人を偲びつつ、それを縁に仏法を聞き味わうためで、「私」を抜きにしてはあり得ません。僧侶がお参りさせていただくのも、そうした家族の方がたに仏縁を結んでいただく

ためであって、けっして「亡き人にお経を聞かせてあげるため」ではありません。

ですから、お茶の心配をしないでいただくことは有り難いのですが、それよりも座つて、一緒に声を出して、お勤めしていただきたいのです。お寺の法要や年忌法要でも、大勢の人たちが一緒にお勤めすると気持ちがいいものです。ぜひ実行してみてください。

さらに、僧侶がいなくても、日ごろからお経に親しみ、お勤めができるようになってくたさると有り難いです。お経は確かに難しい漢字が多く、意味を理解するのは容易ではないでしょうが、繰りかえし上げていくと自然にスラスラ言えるようになります。経文の言葉にも興味がわいてくるものです。

そこで、日常のお勤めと、

その作法について述べてみましょう。（中略）

お勤めの作法は、①念珠を両手につけ、合掌礼拝する

②経卓やひざに置いてある聖典を両手でとっておい

ただき、開ける ③右手でバチを持ち、リンを二回打つ

④お勤め中は聖典を胸の前に両手で持つ（経卓があれば、そこに置く）⑤お勤めの最後は、通常リンを三回打つ（指示されている）⑥聖典を閉じて両手でおし

いただき、元の場所に置く ⑦合掌礼拝する―以上の要領です。

なお、大切な経典ですので、畳や床に直接置くことは避けましょう。また、リンはお勤めの時以外は鳴らさないようにしましょう。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

お勤めの作法



①合掌礼拝する



②聖典をいびだく



③おリンを打つ

＜お勤めの後は、③②①の順で行う＞

年忌法要表

1 周忌	2024(令和 6) 年	23 回忌	2003(平成15) 年
3 回忌	2023(令和 5) 年	25 回忌	2001(平成13) 年
7 回忌	2019(令和 1) 年	27 回忌	1999(平成11) 年
13 回忌	2013(平成25) 年	33 回忌	1993(平成 5) 年
17 回忌	2009(平成21) 年	50 回忌	1976(昭和51) 年

編集後記

今回も「仏事のイロハ」には中略があります。お勤めするお経が載せられず、作法のみとなりました。ご了承ください。◆法話の正信念仏偈も内容が濃くなってきたので、お題目の説明のみで終わってしまうこともご了承ください。◆寒暖差の激しい日が続いています。お身体を大切にしてください。